

筑紫野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画 パブリックコメントの実施結果

(1) 実施結果

意見募集期間	令和6年1月4日(木)～令和6年2月2日(金)
閲覧件数	107件
意見提出者数	3人から6件の意見提出

(2) 提出された意見とその意見に対する考え方

NO	意見の要旨及び内容	意見に対する考え方
1	<p>P14～15地域活動の状況から ①社会参加の状況②地域づくりへの参加の意向のグラフについて。 小分けしてあり状況は分かるのですが、市はこの参加していない人たちをどうしたいのか？グラフの結果だけでその後のことが分からない。結論は活動に参加しやすい環境や仕組みをつくる必要があると記入してあります。つけ加えて具体的な案を出さなければこのグラフの数値は良くなることはないと思います。 これは色々な問題があるでしょうが、例えばの案です。 ・お年寄りの為の送迎バス ・「ちくしの」広報誌の中に小さくではなく大きめの字で募集を募る</p>	<p>貴重なご意見ありがとうございます。地域活動の状況から、今度の具体的な取り組みとして、P37第4章『基本目標ごとの取り組み』基本施策1『高齢者の社会参加の推進』の中で具体的な案を掲載しております。高齢者の社会参加を促すことで、成果指標である『生きがいを持った高齢者の割合』が上がるよう取り組んでまいります。</p>
2	<p>地域活動をしている者として、地域包括ケアシステムや高齢者の見守りを検討していますが、取り組みはほとんど進展がなく足踏みしている状態です。住民自身だけで地域包括ケアシステムや高齢者の見守り進めて行くのには限界があるため、専門家のファシリテーターが必要だと感じています。</p> <p>①高齢者福祉計画の中には、生活支援コーディネーターが配置されていると記載されていますが、まさにこのコーディネーターが住民を導いてくれる専門職と言えるでしょう。しかし、残念ながら市内に1名のコーディネーターでは、加速する高齢化に追いついていけません。大野城市のように行政区毎に配置され、チームとして地域にアプローチすることができるようにしなければ、地域包括ケアシステムの基盤作りはいつまでも絵に描いた餅であり、高齢者福祉計画に実効性を持たすことはできません。</p>	<p>地域の中で様々な検討をしていただきありがとうございます。また、取り組みの提案及び地域包括支援センターについて貴重なご意見をいただきありがとうございます。</p> <p>①令和元年度より、地域包括ケアシステムの推進に向けて、コミュニティ運営協議会と協議をすすめ、高齢者の見守りや地域版の社会資源情報誌の発行等の取り組みが行われました。高齢者の生活支援を進めるためには、地域での支え合いを推進する生活支援コーディネーターの役割がますます重要になります。生活支援コーディネーターが住民に寄り添い、支援ができるよう体制整備に努めます。</p>

筑紫野市高齢者福祉計画・第9期介護保険事業計画 パブリックコメントの実施結果

NO	意見の要旨及び内容	意見に対する考え方
2	<p>② 4つある地域包括支援センターが、来年度には3つに縮小されるという深刻な状況となると聞いて、地域住民は不安に思っています。是非、高齢者福祉計画がただの机上の計画に終わらないように、専門性のある福祉人材が投入され、高齢者福祉計画を実効性があるものにしていただけないでしょうか。</p>	<p>②地域包括支援センターにつきましては、アシスト桜台の事業終了後は、ちくしの荘が職員を増員し、新たな職員が業務に精通するまでの間は圏域を拡大して対応します。将来的にはアシスト桜台圏域での事業所開設を目指してまいります。</p>
3	<p>①P29評価と課題 「生活支援メニュー数の減少」というところは事業所が減少しているのならばメニューだけでなく利用回数もへっているのではないか。</p> <p>②P30評価と課題 9,045人のサポーターの中で数回受講している人は精査して養成数としているか、受講者と養成数が同じととらえているのか。（認知症サポーターと認知症サポーター養成者数と統一して記載するのか。）</p> <p>③P43 アシスト桜台は来年度に向けて終了する事を下部にも記載が必要ではないか。</p>	<p>①生活支援メニューについては、地域での支え合い活動から民間企業等の多種多様な取り組み数を示しており、各メニューの利用回数の把握までできておりません。</p> <p>②認知症サポーター養成者数と受講者数は同数です。 認知症サポーターは、認知症の人やその家族をあたたかく見守る応援者として、自分のできる範囲での活動を行うようお願いしています。養成講座を数回受講し、サポートできる範囲が広がることも必要と捉えています。 評価と課題の記載は、次のとおり修正いたします。 <u>『認知症サポーター養成者数は着実に増加しており、令和4年度で9,045人となっています。』</u>貴重なご意見ありがとうございました。 ※参考（修正前） <u>認知症サポーター養成数は着実に増加しており、令和4年度で9,045人の認知症サポーターがいます。</u></p> <p>③地域包括支援センターについては、『地域包括支援センターの変更について』の項目で別途記載し、3月末で事業終了予定のアシスト桜台については、『旧アシスト桜台』と標記して対応します。</p>